

外国語科学習指導案

指導者 水川 航生

日時 平成30年11月17日(土) 第2校時(11:05~11:55)
年組 中学校第1学年2組 計40名(男子20名,女子20名)
場所 中学校第1学年2組教室
単元 NEW HORIZON English Course 1(東京書籍) Unit 4 ホームパーティー

単元について

本単元は、緑中学校のALTであるベーカー先生の自宅で開催されるホームパーティーに参加するアレックスが、手土産の果物を買うに行く場面から始まる。ベーカー先生宅では、光太がペットについて先生に質問したり、先生が参加者にドギーバッグを使うように促したりする場面展開となっている。ストーリーの流れから買い物に行く必然性があり、指示や提案も自然な文脈の中で使用されるなど、場面設定の工夫がなされている。ペットの話から飼い犬への手土産を連想させるドギーバッグを取り上げる場面は、ウィットのきいた伏線と捉えることもでき、遊び心を感じさせる。言語材料は、(1)名詞の複数形と特別疑問文 How many ~? 及びそれに対する応答という数に関する表現 (2)指示と勧誘を意味する肯定の命令文 の2つに大別される。それぞれの文法事項に相関関係はないため、関連づけることなく個別に指導できる内容である。

本学級は、外国語学習への意欲が高く、間違いを恐れず積極的に言語使用に取り組む生徒が多い。また、観察と思考から法則を導き出す帰納的なアプローチを試みる傾向が強い。そもそも中学生の年代は、知的好奇心や探究心を高められる時期である。演繹的な一斉指導からルールディスカバリーなどの帰納的指導に転換する好機であり、気づき(noticing)と取り込み(intake)を起こさせることができる発達段階にある。これを、次期学習指導要領のキーワードの一つである主体的・対話的で深い学びにつなげたい。

指導にあたっては、本単元を含め、1年間を見通した螺旋型授業(spiral teaching approach)に取り組んでいる。1年を3期に分け、(1)意味重視のインプットとインプットの取り込み期(meaning-focused input and intake) (2)意味重視のアウトプット期(meaning-focused output) (3)流暢さの訓練期(fluidity development)という時系列で指導を行い、その過程において教科書を複数回指導するものである。なお、(1)期前にはphonics指導を行い、正しく読むための素地づくりをした上で(1)期の指導に入っている。(1)期では、原則として詳細な文法解説や語彙を含めた細かいライティング指導は行わない。リスニングと音読のドリルにより、理解可能なインプット(comprehensible input)の総量を増やし、取り込み(intake)を促すことに主眼をおいている。現在は(2)期に入っており、(1)期で培ったインプットと取り込みを、意味の伝わるアウトプットにつなげることを目標に、再話(story retelling)に取り組んでいる。単元の会話をナラティブ(説話:narrative)に再構成することは、意味が分かっている事柄を相手に正確に伝わるよう描写することであり、英語慣れを進めるとともに、自分の弱点も客観的に認識できる活動である。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、探究心や思考力は欠かせない。探求や思考は、それを支える基本的な知識・技能・表現力がもとになっている。外国語科における基本的な知識・技能・表現力とは、「実践的コミュニケーション能力」と言い換えることができよう。教科の特性として、技能の習得のためには様々なトレーニングが不可欠である。効果的なトレーニングによって身につけた技能が、主体的な学びに生かされたとき、生徒は言葉を使う魅力に気づくはずである。卒業後も英語に興味をもち、ライフパンにおいて能動的に英語学習に取り組める生徒の育成を目指したい。

指導目標

1. 場面や状況が聞き手によく伝わるよう、適切に会話を説話に再構成することができるようにする。
2. 使用する文の意味を理解し、登場人物の感情や場の雰囲気や場が伝わるように読めるようにする。
3. 正しい発音やイントネーション、適切な速度や間の取り方など、工夫して読めるようにする。

指導計画（全3時間）

1. Unit 4 音読, 読解, 再話プロットの構想 1時間
2. Unit 4 再話プロットの作成, 演習 1時間 (本時)
3. Unit 4 再話発表, 全体共有, 質疑応答, まとめ 1時間

本時の目標

場面や状況を聞き手によく伝えられるよう、適切に会話を説話に再構成することができる。

学びを豊かにするための手立て

個人で考える場面とペアで考える場面をそれぞれ区別し、段階ごとにアイデアが膨らむようにすること、さらに、チームで交流や共有を行うことで表現内容や表現方法をより洗練させ、新しい気づきや取り込みを促すように授業を設定していることが第一の手立てである。個のアイデアや表現の工夫、見方・考え方などを全体共有させることで、生徒の自信や自己有用感の向上につなげるよう働きかけることが第二の手立てである。

学習の展開

学 習 活 動 と 内 容	指導上の留意点（◆評価）
1 2 minutes buzz reading (2分)	○生徒の自主的な個人音読ではあるが、積極的に机間指導を行う。
2 Greetings (1分) ・号令, あいさつ, daily questions, etc.	○リズム良く行う。
3 Ice-breaker (5分) ・ Question and Answer	○会話の内容をクラス全体に問いかけることで、聞き取りと英問応答に慣れさせる。
4 Communicative activity (1 1分) ・ スモールトーク (Small talk) ・ 会話の振り返りと共有 (Interaction of the session)	○authentic な会話になるよう意識させる。 ◆表現の技法を適切に用い、意欲的に質問や応答をしようとしているか。 【主体的に学習に取り組む態度】
5 Confirmation of the first version of the plot (7分) ・ 読みの確認 (individual reading of the plot) ・ ペア発表と協議 (Performance and discussion in pairs) ・ 演習準備 (Preparation for practice)	○個別読みを行い、内容を反芻させてからペア発表につなげる。
6 Story-retelling practice in teams (1 2分) ・ 演習実演 (Demonstration) ・ チームでの振り返りと共有 (Feedback and sharing in teams)	○4人1チームを組み、順番に再話の演習実演を行わせる。聞き役は strategic competence を使って聞くように促す。 ○picture card 等の prop を必要に応じて使い、自然な説話になるよう工夫させる。 ◆Unit の会話文の情報について過不足なく、適切な表現を用いて説話に再構成できているか。【思考力・判断力・表現力等】
7 Feedback and completion of the plot (1 0分) ・ 推敲と修正 (Modification) ・ 演習実演の共有 (In-class demonstration)	○演習実演の振り返りをもとに、plot を修正させる。 ○余剰時間があれば、学級全体での発表を呼びかける。
8 Review, notice and greetings (2分) ・ 本時の評価や連絡, 号令, あいさつ	